

114  
A 4436

三十一

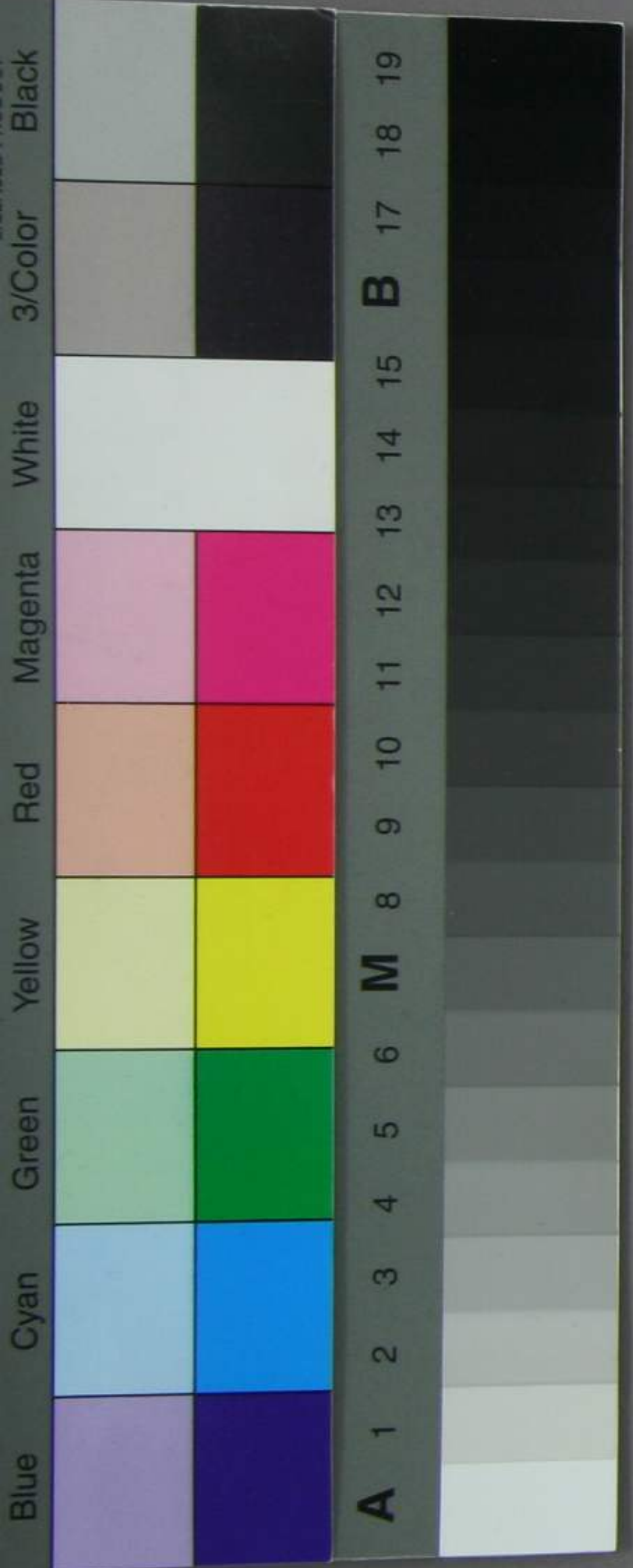


親親、交際  
抄譯

一千八百七十五年二月二十日、東京ヨル  
ニヨリヨルクノ親切ナル報告人ヨリ前ノ郵船  
ニ托シ一千八百七十四年合衆國外國交際中外  
國人雇入殊ニホルモ遣使ニ先チ又遣使  
日本ノ用ニ合衆國人民雇入ノ事ニ関スル諸  
箇條ノ沿革ヲ惠メレタリ然レ此種査スヘキ事  
アリタルヲ以テ本誌刊行ニ至ルマテ之ヲ省官  
ノ一覽ニ供スルヲ得サリキ茲ニ載セタル文書

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

195  
3  
E



ハ此遣使ニ與カリタル外國人ノ全史ニシテ合  
衆國外務宰相是等ノ外國人ノ便宜ヲ許可シテ  
在支那合衆國交際上及ヒ交易上名代人ヲ説破  
シタルハ先ルハ余輩ノ悦ヲ所ナリ余輩ハ常ニ  
日本ヲ助ケタル是等ノ外國人ノ所行ニ向  
律上ノ異論ヲ為スヲ得ニリシトテ固ク信シタ  
レ此一地方ノ説ノ外ニ之ヲ支持スル者無カリ  
シラステ世人余輩ノ説ヲ聴クハ深ク注意セン  
テ期望スルニ能ハカリシカ今ハ必要ナル證據  
ヲ得フ井シ氏ハ法律官ト議セザレバ支那名

代人ヲ嚴責スルニ能ハカリシヲ以テ説ハ即  
チ合衆國法律上至高ノ權ヨリ出タル説ナレハ  
之ニ依テ余輩ゼラレゼンドカアテイ  
カツセルリエニテナントワツソン日本政府南  
ホルモサノ土蕃ニ對シテ起シタル企ヲ助ケル  
權アリシト言フ時ハ世人ノ容易ニ之ヲ信セン  
トテ説ヲ得可シ  
余輩合衆國外國交際ノ沿革ヲ省官ニ示スニ當  
リ之ニ數言ヲ附シテ全文ヲ解シ易カラシム可  
シ上ニ言ヘル三名ノ事一人ハホルモサ遣使ノ

事ヲ企テサリシ前ニ日本政府ニ雇ハレ契約ニ  
從テ政府ノ助ヲ為スヘク命セラレタリ第二人  
ハ蝦夷開拓局ニ属シテ久シク日本政府ニ使用  
セラレタリ又新タニ他ノ職務ニ轉セラレタルノ  
ミ第三人ハホルモサ一條ニ付テ雇ハレシ  
其職掌ハ決シテ支那ニ對スル事ニ非スホ  
モサ遣使ハ支那ノ權利ト衝突スヘキ目的有セ  
サリシ一ヲ告知セラレ三名ノ雇ハレシハ支那  
ナリ日本ニ處置ニ向テ異論ヲ出サンヲ少シモ  
慮ル者無カリシ時ニシテ後ニ支那ノ敵意ヲ

表シタルハ自己ノ意ヨリ出タルニシテ但シ外  
國助言人ニ鼓舞セシ所ナルハ今日ニ在テ識  
論無シ一時ハ戦争且クニ逼リタル勢ナリシカ  
事未決シテ戦争ニ至ラザリキ縱令ニ戦争ヲ起  
シタリ民上ノ三名引責ニテ日本ノ為ニ盡力  
スルノ權利ヲ有セシ一ヲ表スルハ雅々ク不  
人ハコトクニ合衆國ト和親ノ國ニ對シ戦争ヲ為  
ス間ハ何人モ之ニ雇ハル可カラス云々ト盟約  
ニ載セタル文ヲ日本合衆國ト和親ノ國ニ對シ  
戦争ヲ為ス間ハ合衆國ノ人民日本ノ海陸軍ニ

使用セラル、一能ハスト云フ義ナリト解釋シ  
余輩ハ斯ル戦争最中ニ外國人日本ニ雇入レラ  
ル、一能ハサレ此戦争ノ起ラサル以前既ニ雇  
ハレタ者ハ猶其契約ヲ遂クル為ノ引續キテ  
使用セラル、此法律ニ反セスト主張ナリ余輩  
ノ説當然ナレハゼラレゼンドル等ノ所行  
少シモ法律ニ背カス蓋シ此説ノ當然ナルハ  
次ノ文書中フ井シ氏ノ言ヲ以テ之ヲ徴ス

一千八百七十四年八月二十六日華盛頓  
外務省第四百零九號

フ井シ氏ヨリセワルド氏へ

第百六十四號

太省ヘシデルソン氏ノ第三十二號ノ事ヲ講  
シフニホルモサ征伐ニ付キ支那官吏ヨリヘ  
シデルソン氏ニ助ヲ乞ヒタル事ニ関シ是下  
トヘシデルソン氏ト通信ノ写ヲ封シテ  
ヨリ贈レル六月二十三日附第七百六十六號  
ノ文書ヲ領掌シ又全シ郵便ニテヘシデルソ  
ン氏ヨリ此征伐ニ雇ハレタル米人へ布告文  
ノ写ヲ添ヘタルヘシデルソン氏ノ第三十二

號ヲモ領掌セリ

足下ヨリヘンデルソン氏へ贈リタル書簡中  
ニ足下ハ全氏ヨリ出シタル布告文ノ結句ヲ  
其カ弱シト云ヒ一千八百十八年ノ法律中ハ  
箇條ヲ引証シ且ツ全氏ノ文書ノ写ノ附  
未人ニシテ支那日本若クハ何レノ地ニテモ  
合衆國ノ法律ヲ施行シ得ヘキ處ニ於テ法ヲ  
犯ス者了レハ速カニ之ヲ罰スルハ本政府ノ  
義務ナルトハ本省之ニ全意スレモ現ニ法律  
ヲ破ルニ非サレハ之ニ對シテ妨碍ヲ為スヘ

キ理無シ

本政府、法律ヲ破ルニ非サレハ未人各箇ノ  
作善<sup>為</sup>若クハ交易上ノ所業ヲ節限スルヲ為  
サス

ヘンデルソン氏ノ布告文ヲ閱スルニ支那官  
吏ヨリ全氏ニ愁訴シタルニ依リ全氏、  
タル職掌ヲ以テ之ヲ出シタルヲ知ル此布告  
文ニ惣テ合衆國人民ニ向テ直チニ支那受府  
ニ懇親ナラサル作為ヲ止メ將來後々之ヲ行  
フヘカラサルトテ命シ合衆國人民之ニ從フ

ヲ背ンセス或ハ此箇條ヲ犯ス者アレハ合衆  
國ノ保護ヲ失フ可シト布告ス

本省ハ領事斯ル布告ヲ出スノ權ヲ有セルヲ  
見出コト能ハス

一千八百六十年ノ法律ノ箇條ニ依リ在支那  
及ヒ在日本合衆國公使ニ合衆國人民合衆國  
ト和親ヲ保セル外國ニ對シテ戰爭ヲ為サン  
為メ支那若クハ日本ノ海陸軍ニ雇入レラル  
ハヲ禁シ若クハ一國人民ノ一部ヲ攻メテ為  
メ他ノ一部ニ雇入ラル、ヲ禁スル為メニ諸

般ノ命令ヲ出スノ權ヲ与ヘ此權ヲ施行スル

ニ其時ニ當リ公使ノ力ヲ以テ召集シ得、キ  
合衆國ノ兵力ニ倚頼スルヲ許ルセリ

是レ或ル緊急ノ時ニ際シ一定セル節限内ニ

於テ公使ニノミ与ヘタル非常ノ特權ニシテ

右ノ法律ニ掲ケタル國ニ於テハ合衆國人民

領地外ノ權ヲ存セルヲ以テ公使ニ此特權ヲ

任セリ但シ此特權ハ獨リ公使ニノミ與ヘ領

事ハ少シモ之ヲ有セス

然レ氏ヘンデルソン氏ノ布告文ハ支那政府

ノ 愁訴ニ依リ全氏自カラ合衆國領事官トシ  
テ出シタル所ナリ其國人ノ警戒預防ノ為メ  
ノミナレハ謹慎ナル注意トシテ之ヲ善シト  
スレトモ此布告文ハ警戒ヲ為スニ止ラス領事  
ニシテ公使ノ特權ヲ僭スルノミナラス何等  
ノ所行ノ罪犯タルヤヲ決シ之ニ附スルニ罰  
ヲ以テセリ

領事斯ル布告ヲ出スノ權有ルト否トハ姑ク  
論セスは布告ハ惣テ合衆國人民ニ向テ支那  
政府ニ懇親ヲ示サレテ作爲ヲ禁シタルヲ以テ

恐ラクハ法律ニ從ヒ日本人ニ使用セラレタ  
ル合衆國人民ニ干涉セバ本省ハ日本人ニ使  
用セラレタル合衆國人民ノ職掌ヲ一々明知  
セサレハ合衆國人民日本文官ノ職掌ヲ奉ス  
ル者多キヲ知ル彼等其契約ニ從テ為ス所ノ  
何等ノ所行ヲ以テ他國者テ懇親若シクハ懇  
親トシテスト做スマシ之ヲ定ムルハ雖シ一政府  
ノ所行作為ヲ他國ニ於テ懇親ナラスト看做  
セバ猶戰爭ノ所行トスルニ至ラス又之ヲ行  
セタル國ノ局外中立ヲ累ハスニ至ラス甲國

砲台ヲ築キ道路ヲ開クヲ以テ乙國者ヲ懇親  
ナラサル所行ト做スヲアル可シ現ニ先例アリ  
然レ氏之ニ依テ内國其人民ニ命シ甲國ノ  
砲台道路ノ築造ニ使用セラル、ヲ禁スレリ  
無ク禁スルヲ要セサル必セリ殊ニ其人民既  
ニ以前ニ契約ヲ結ビ契約ヲ結ビタル時其契  
約法律ニ背クヲ無ケレハ愈之ヲ遂クルヲ禁  
ス可カラズ

本政府ハ其人民ノ一人平和ノ時即チ戦争若  
クハ敵意ノ起ナク或ハ其企無キ時日本若ク

ハ他國ノ軍務ニ入ルノ契約ニ正シキ契約ニ  
非ス若クハ法律ニ反スルモノト為ス可シト  
思想セズ平和シテ敵意ノ企無キ時契約ヲ結  
ハハ其法律ニ合ヘルトハ文事ノ職掌ト武事  
ノ職掌トニ付テ少シモ別ナシ  
其後ニ至リテ戦争若クハ叛乱ノ起ルヲア  
ルニ家初ニ結ビタル時正シキ契約ハ之ヲ成シ  
遂クヘカテナルノ理ナキニ似タリ但シ戦争  
叛乱ノ時ニ際シ新タニ契約ヲ結フハ法律ニ  
合ハズ



奉職ノ契約法律ニ合ヘハ契約ヲ結ビタル者  
其職ヲ行フノ家モ必要ナル時外國人民ナル  
ヲ唱ヘテ其職ニ属スル負任危険ヲ避クルル  
能ハス

其者若シ逃亡シ又ハ命令ニ従フコトヲ肯ンセ  
カレハ諸國ノ法律ニ依テ逃亡背令ノ罰ヲ受  
クヘキト疑ナシ若シ其者ノ雇入レラレタル  
國後ニ他國ト戦争ヲ起シタル時軍ニ従ヒ若  
クハ他國ノ領地ニ入攻ムルハ合衆國人民ト  
レテ後軍入攻スルニ非ス但シ交戦國ノ兵卒

トシテ之ヲ為スモノナリ若シ其者通常文明  
國戦争ノ方法ヲ以テ戰場ニ於テ殺サルレハ  
合衆國ノ之ヲ殺シタル國ヲ罪アリトセズ若  
シ生擒トナレハ之ニ非常若クハ醜酷ノ罰ヲ  
加フヘカラルヲ要スルニ過キスシテ唯文  
明國戦争ノ規則ニ従テ戦争ノ生擒タル待遇  
ヲ受クルヲ注目討索スルニ  
故ニ戦争ノ企ニ関涉セズ敵意ノ起ルヲ期セ  
スシテ平和ノ時規則ニ従テ日本ノ使用ニ雇  
入レラレタル合衆國人民ハ合衆國ノ法律ニ

依レハ之ヲ罰スル能ハス又敵意ノ起リタル  
時ニ臨ミ其契約シクル職掌ヲ行フヲ禁シ若  
シクハ職掌棄ルヲ肯ンヒカルヲ以テ之ヲ罰  
スル能ハスト思想ス

外國人ハ獨リ日本ノミナラス各國ノ軍事ニ  
加ハレリ爾キニ我國反乱ノ間諸外國人合衆  
國兵ニ加ハリシノミナラス又反兵ニ加ハリ  
タレト諸外國政府ニ對シテ之ヲ論ヒス彼等  
ノ反兵ニ加ハリシヲ我政府ニ於テ苦<sup>情</sup>ヲ訴フ  
ヘキ事ト考ヘサリキ

支那ハ自己モ亦其軍中ニ外人ヲ使用シタリ  
一千八百六十年ノ我法律ニ依テ合衆國ト和  
親ヲ保セル外國ニ對シテ戦争ヲ為カン為メ  
支那若クハ日本ノ海陸軍ニ雇入レラル、ヲ  
禁シ若クハ一國人民ノ一部ヲ攻メン為メ他  
ノ一部ニ雇入レラル、ヲ禁スルノ外他國ノ  
敵ト戦フモ内國ノ反乱ヲ征スルモ大理不<sup>レ</sup>  
ハ法律ニ於テ一點ノ別ナシ  
ワルド及ヒブルゲン(兩人共米人)ハ支那ノ  
軍事ニ使用セラレタレト支那ハ之ヲ不法若

クハ不当若クハ公法ヲ犯シ若クハ盟約ノ義  
務ヲ破リタリト着做サ、リキ

余ハ此事ニ付キ確報ヲ得タルニ非サレ度目  
今支那ノ軍事ニ多クノ欧人ヲ使用シ恐ク  
ハ二三ノ米人ヲモ使用スルヲ信ス

一千八百六十年ノ法律ハ蓋シ日本支那ニ関  
スル一千八百十八年ノ法律中ノ缺典ヲ補ヒ  
當時現存ノ法律ニテハ土地遠隔ノ故ヲ大統  
領ノ与フルヲ能ハサリシ法子ヲ備ヘン為メ  
一設立シタルモノナリ

本省ハ一千八百十八年ノ法律ハ支那日本ニ  
於テ其國內ニ在ル合衆國人民ニ関シ効力無  
シト言フノ意ナケレド多クハ一千八百六十  
年ノ法律ニテ用ニ足ルヲ信ス

ヘンデルソン氏ノ電報ニ説明シタル如キ都  
督ノ請求ヲ容ル、トテ是下ヘンデルソン氏  
ニ助言シテ避ケシメタルハ善シ

領事仲人トナルハ少シモ裨益ヲ生スルヲ能  
ハサリキ支那政府ハ日本人ノホルモサヲ去  
ランヲ需ムルニ合衆國ノ職ヲ奉スル官吏ノ

助ヲ得ント欲セシテ明白ナリ

ハノ如キ事ハ全ク領事ノ職務ニ非ス此文書

ノ大略ハヘンデルソン氏在日本合衆國公使

ニ在支那代理公使ヘモ言遣リタリ

余ハウヰルリヤム氏ニ贈リタル命令去ル七

月二十九日附第百七十四號ノ沿革ヲ此文書

ト共ニ足下ニ寄示ス

ハミルトンフ井シ敬白

外務宰相ト領事ト往復ノ文書ニ之ヨリ激烈ナル

者ハ宋ニ想像シ難クセワールド氏ハフ井シ氏ノ

責ヲ受テ可ナリ蓋シセワルト氏ハ初ノヨリ支

那人ニ候スルノ意ナリト見エ其通信中諸處ニ

セヲラレレゼンドルノ捕足ハ大イニ支那官吏

ノ心ヲ満足セシメタリ等ノ語アリテ恰モ支那

人ヲ満足セシムルヲ其職務ト為シ本國ノ法律

ニ從ヒ其行為ノ標準ト為スヘキ規則ヲ奉スル

トハ支那官吏ヲ悦ハシムルカ為メニハ一歩ヲ

譲ルヘキモノト看做スカ如クウヰルリヤム氏

セワールド氏ノホルモサ事件ニ関スル文書ニハ

一々支那人ニ局外中立ヲ固守セント欲スルヲ

示スヲ以テ重要トセリ局外中立ハ善シト虽モ  
彼等ハ少シモ其標準ト爲スヘキ法律ヲ知ラズ  
妄リニ支那人ニ諂諛シセヨド氏ハ只己ノ目  
的ニ合ヘハ法律ニ合ト否トヲ注意セサレシ  
人ヲ大イニ満足セシメン為メ不法ノ事ヲ行ヒ  
シヲ自カテ認メタリ余輩時々公使領事ノ厯制  
ヲ行フヲ聞ケル大抵其罪狀ノ無根ナル疑ヒタ  
リ若シ斯ル例アリシテラハ今余輩ノ論スル所  
即チ其一ナリフヨシ氏ノ書簡ヲ見レハ句々セ  
ヨド氏擅行ノ罪ヲ怒リ惣領事ノ所行ハ全ク

領事ノ職掌ニ非スト云フ一言ヲ以テ結文トセ  
リ常ニ激烈ノ言ヲ吐カサル職掌ノ人ヨリ斯ル  
嚴責ヲ招イタルハ其罪犯ノ大小如何ン者官自  
カラ判スルヲ得可シ  
セヨド氏ハ常ニ誤謬ヲ爲セシノミナラズ又  
事實在厦門合衆國領事ヘンデルソン氏ヲ欺キ  
タリヘンデルソン氏ヨリセヨド氏ヘ電信ヲ  
以テレセンドル合日茲ニ到着セリ余按スルニ  
ホルモサニ赴ク途中ナリ北京ヨリ何ノ命令  
アリヤト云遣リシ時日本人ト衝突セスシテレ

ゼンドルヲ捕フルヲ得ハ之ヲ捕ヘスタント  
及ヒ支那人ニ告ケ其助ヲ乞ハ報告セヨト答ヘ  
タリヘンデルソン氏ハ此答詞ヲ見テ自然は命  
令ハ北京ヨリ来レリ決ス可シ然レ氏北京ヨ  
リ来リタル命令ニ非サレハ今余輩ノ知ル所ナ  
リセワルド氏ハ他處ニ於テゼ子ラルゼンド  
ルヲ捕ヘタルハ自己ノ意ヨリ出クルトヲ報告  
シ其要旨ニ鳥ヲ捕ヘ其翼ヲ断ツノ口呆ヲ要シ  
タレト一ノ口呆ヲ見出スヲ能ハサリキト云ヒ  
ハ月五日ゼ子ラルヲ捕フルノ命ヲ出シ今月十

一日ニ至リテ余ハ彼ノホルモサニ赴キゼ子ラ  
ルハ嘗テホルモサニ赴クノ意無カリキ今彼ノ  
在ル所ノ國ニ向テ干戈ヲ執ルヲ制止スルノ方  
法無シト決意セサルヲ得サルトヲ認ムト云ヘ  
リゼ子ラル捕提ノ事ニ付テヘンデルソン氏ハ  
深ク咎ムヘカラスセワルド氏ノ如ク一周ノ始  
ヨリ一周ノ終マテ自カラ其心ヲ知ラサル人惣  
領事ノ重職ニ在ルハ不適當ナリ其属官ヲ指揮  
スル才幹ヲ有スヘキ職ニ在テ自カラ其國法ヲ  
知ラス先ツ人捕ヘ然ル後ニ罰ヲ加フヘキ罪犯

ノ有無ヲ探索スルカ如キハ米國共和政治自  
由ノ名代人タルニ違セ今其叔父ノ補助ヲ  
失ヒタルヲ以テ生涯沈没シテ相当ノ報ヲ受ク  
可シ

セワルド氏ニ関スル是等ノ文書ヲ讀ムニ隨テ  
益其任ニ堪ハサルヲ知ル其國人保護ノ職務ヲ  
有セル領事支那ノ權利ヲ各人ノ權利ヨリ重ン  
スルノ理ハ人ノ思想シ得ヘキ所ナランヤ然ル  
ニセワルド氏ハ此意思ヲ懷キダビス氏へ贈リ  
タル書簡ニ余ハ足下余ノ各人ノ權利ヲ顧ミサ

ル所行ヲ見ルヲ哀シマレ余カ在留セル大帝國  
ノ權利ヲ顧ミサルハ余ノ更ニ哀シム所ナリト  
言ヘリ之ニ依テ各人ノ私權支那ノ權利ト相反  
スルト者ル時ニセワルド氏ハ支那ノ權利ノ為  
メニ各人ノ權利ヲ顧ミス米人ノ有セル自由ノ  
楯ヲ奪ヒ法律ヲ牽強シテ自由ト支那ノ權利ト  
互ニ相及シテ兩立スルヲ得サラシムルハ自  
由ハ全ク地ヲ拂フ可シ  
セワルド氏ニ送ラレレドント捕ヘタル事  
ニ付キ合衆國政府ノ意見ハ左ニ記載セル外務

宰相代理カドワラデル氏ヨリセワールド氏ニ贈  
リタル書簡ヲ見テ知ルベシ

一千八百七十四年十一月七日華盛頓

外務省第四百二十五號

ガドワラデル氏ヨリセワールド氏ニ第百七  
十五号

前ノ在厦門領事ゼチアルセンドルヲ捕ヘタ  
ル要置キニ之ヲ放ルシタル事ヲ本省ニ報知  
セル之下ノ文書第百十二号及ヒ此事ニ関  
係セル書類ヲ領掌シ足下ノ第七百九十五號

ヘンデルソン氏ノ第四十二號第四十四號ニ  
照シ細カニ之ヲ讀ミタリ

本省前ノ足下及ヒ在支那日本合衆國公使  
ニ贈リタル諸文書中ニ合衆國人民ホルモサ  
征番ニ加ハリタル一條ヲ講シタルヲ以テ茲  
ニ之ヲ論セス唯レゼンドル捕投一條ノミ  
ヲ説ク可シ

本省ノ領掌シタル文書ニ種々ノ事ヲ遺漏シ  
テ詳明ナラサレモ今此ル所ノ事案ニ依テ考  
フレハ蓋シは案件ノ形情ハ左ノ如シ一千ハ



百七十二年十二月ノ頃ゼ子テルレゼンドル  
日本ニ雇入レテレタリ但シ其職掌ハ詳カナ  
ラズ足下ハレゼンドルヲ軍事ノ助言人ナリ  
ト述ヘタレハ外務省ニ関スル職掌ニ雇ハレ  
タリト聞及ヘリホルモサニ赴カントスル兵  
ヲ整フルトニ加ハリタルヲ以テビンカム氏  
カヲ盡シテホルモサ征伐ニ與カルトヲ止メ  
日本兵ハレゼンドルヲ伴ハスシテ祭程セリ  
レゼンドルハ夫ヨリ復タホルモサ征伐ニ与  
カリタリト見エヌ横濱ヲ祭シテ香港ニ着シ

夫ヨリ油頭<sup>山</sup>厦門ニ到レリ其厦門ニ著シタル  
時ヘンデルソシ氏ヨリレゼンドルハホルモ  
サニ赴ク途中ナラント述ヘテ命令ヲ乞ヒシ  
ニ依リ足下ヘンデルソシ氏ニ之ヲ捕フヘキ  
命令ヲ与ヘレゼンドルハ八月六日厦門ニ於  
テ捕ヘラレタリ之ニ依テレゼンドルハ領事  
裁判所ニ於テ議論ヲ祭シ就中彼ヲ捕フル票  
中ニ何等ノ罪ヲ犯シタルヲ記セサルトヲ論  
シ彼ノ日本ノ職掌ニ雇ハレタルハ法律ニ合  
ヒ盟約ノ許ス所ナリト主張シ引續テ日本

職掌ニ在ルハ少シモ合衆國ノ法律ヲ破ル  
ナシト唱ヘ其請ニ依リ上海ヘ送ラレシカ茲  
ニ到著シタル時ウヤム氏ノ徳德ト足  
下ノ命令トニ依テ捕囚ヲ放サレタリ是レレ  
ゼンドル捕提ニ関シテ本省ニ報告シタル事  
由ナリ

足下ハゼ子ラルレゼンドルノ支那人ニ對セ  
ル意志ト其元來ノ職掌トヒ支那行ノ目的ヲ  
顯ハカン為メ種々ノ道理ヲ述ヘタレハ物々  
理論若クハ推察タルニ過キス

ゼ子ラルレゼンドルハ我政府ノ為メニ貴ハ  
ヘキ用ヲ為シタル合衆國人民ハ一人ニシテ  
常テ其捕ハレタル土地ノ領事タリキ而シテ  
御門ヨリ支那帝ヘ遣差ノ使節ニ附屬セシト  
云フ

是等ノ故ヲ以テ重大ノ原由アリ罪ノ明證アリ  
リシニ非サレハレゼンドルニ對シ治罪ヲ始  
ム可カラス捕提ノ法ニ合ヒシマ放解ノ適當  
ナリシヤヲ判スルニ其罪狀及ヒ証據ヲ明  
知セサル可カラズ然ルニ本省得ル所ノ文書

ハ是等ノ重要ナル箇條ヲ遺漏シ少シモ報知  
セズ

是下ノ第八百十一號ニ附屬シタル憑書第八  
號ハ全備セズ記名モヤル票ニシテ蓋シレゼ  
シドルヲ捕ヘシ票ノ体裁ノ大略ヲ示サレ為  
メノ寫ナル可シ

此憑書ハ或ル一ノ罪犯ヲ行ヒタルトヲ記セ  
ズ票ヲ出シタル所以ノ実事ヲ述ヘズ一ノ愁  
訴ヲスクハ報知アリタレトヲ載セスヘンニ  
ソシ氏ヨリハ月十日日本ノ代領事ニ贈リタ

ル書簡ニゼ子テルンゼンドルハ合衆國ノ法  
律ヲ犯シ合衆國ト支那トノ盟約ヲ破リ支那  
政府ニ敵スル征伐ヲ助言輔翼勸勵スル罪狀  
ニ依リ合衆國領事館ニ於テ余ト為メニ捕捉  
セラレタリト告ケ又全氏ヨリウチルリヤム氏  
ニ贈リタル書簡第十號其寫ハ全氏ノ第四十  
二號ト共ニ本省ニ送致シタリニレゼンドル  
ハホルモカ嶋ヲ攻ムル日本兵ヲ助クルヲ以  
テ之ヲ捕ヘタリト述ベタリは外ニハ稍分明  
ナル罪狀ノ記載ナシ

右ニ述ハタル罪犯ハ甚ク不定ニシテ何時何  
處ニ於テ之ヲ行ヒタルヲ記ロズ犯人ノ何國  
人民タルヲ言ハス其所行ヲ罪犯ト為スヘキ  
實事若クハ法律ノ箇條ヲ舉ケス  
一千八百六十年ノ法律第二百四十七節ニ依  
テ在支那合衆國領事ニ支那ニ於テ法ヲ犯セ  
ル合衆國人民ヲ裁判所ニ呼出シテ詮議ヲ為  
スノ權ヲ与ヘ是等ノ箇條ハ改正ニ於テモ大  
イニ準マリタル所無シ(第四十零八十四章第  
四十零八十七章ヲ見ヨ)

總テ罪犯ハ之ヲ行ヒタル處ニ於テ詮議スル  
事ハ法律學ノ一部ニ認ムル所ナリ  
合衆國裁判ノ常法ニ從ヒ及ヒ支那ニ於ケル  
全權ノ案件ニ關スル規則ニ依レハ人ヲ捕フ  
ル票ヲ出スニハ其人法律ヲ犯シタル一ノ所  
行若クハ多クノ所行ヲ為シタル罪狀ヲ記シ  
被告人其控告セラレタル罪犯ヲ知ルノ權利  
ヲ有シ之ニ其罪狀ヲ告知ス可シ  
故ニ本省ノ聞知スル所ニテハは案件ニハ一  
モハ缺クヘカラス諸箇條アルヲ見ス

合衆國領事官ハ原告人ヲニ裁判人トシテ事  
ヲ行セタリト見ユ蓋シ止ムヲ得ヤル所ナリ  
然レモゼ子ラレレゼントル明白ニ確定シメ  
ル法律上ノ罪ヲ犯シタリト控告セス又之ヲ  
レゼンドル若クハ本省ニ告ケス  
或ル一ノ罪ヲ犯シタリト控告セサル一條ハ  
姑ク措キ上海若クハ厦門若クハ支那帝國ノ  
領事管轄内ニ於テ何等ノ罪ヲ犯セント云フ  
ヲ聞カス

ホルモガ征伐ハ日本ニ於テ之ヲ整備シゼ子  
ラレレゼンドルヲ伴ハスシテ日本ヨリ出帆  
シ夫ヨリ復タレゼントルハ此事件ニ関係シ  
クル証據ヲ見ス  
故ニは征伐ヲ助言輔翼勸勵スルニ付キ罪ヲ  
犯セシモモセヨ支那領事裁判所ノ管轄外ナ  
ル外國ニ於テ犯セシモノナリ  
蓋シ此案件ノ可否ハ更ニ之ヲ講スルヲ要セ  
ズ本省ハ其得タル所ノ実事ニ依リゼ子ラレ  
レゼンドルハ支那若クハ日本ニ於テ何等ノ  
罪ヲ犯シタリマ或ハ一千八百六十年ノ法律

ニ背キタリヤ或ハ合衆國ノ局外中立法ヲ破  
リタリヤ否ヤ敢テ是等ノ諸件ヲ討論セス  
然レモ本省へ送致シタル報知ニ依テ考フレ  
ハ是等ノ諸件ニ付テハ大イニ疑アリト云フ  
一ヲ得ヘシ

支那ニ於テゼ子ラルレゼンドルヲ控告シ得  
ヘキ否ヤ疑ハシキヲ以テ日本ニ送り詮議ヲ  
受ケシメント言贈ラレタレモ斯ル事ヲ行フ  
ハ合衆國領事ノ權限内ニ在ル可シ  
法律ニ依ラス若クハ一ノ控告スヘキ罪状ナ

カシテ捕ヘラレタル囚人ハ解放セラル可シ  
盟約中ニ載セタル罪人引渡シノ箇條ニ依ル  
ニ非カレハ囚人ヲ他國ニ送りテ詮議ヲ受ケ  
シムルニ能ハス日本ニ於ケル何等ノ官吏ニ  
モ斯ル引渡ヲ為スニ能ハサリキ  
本省ハ是等ノ道理ト報告ヲ受ケタル実情ト  
ニ依リゼ子ラルレゼンドルノ捕提ハ法律  
許ル所ニ非ニシテ本省之ヲ許可スルヲ得  
スト決セサルニ能ハス此事若シ他國政府  
所行ナラハ恐テクハ合衆國ニ於テ容易ニ看

過スルヲ能ハサリシナラシ  
足下ノ文書中日本人ノ所行ホルモサ征伐ノ  
情状ゼ子ラルレゼンドルノ之ニ関係セル  
及ビレゼンドルノ支那ニ敵對シテ日本ヲ助  
ケント欲スルヲ表スル等ノ諸説ノ如キ  
捕提函ヲ行フヘキ罪犯ノ証據タルヲ見

外務宰相代理

ジヨシ、シ、カドワラデル、敬白

カ、ソ、ラ、ル、氏ノ理論ハ甚タ明瞭ナルヲ以  
之ヲ解説スルヲ要セズ余輩ハ唯同氏ゼ子ラル  
レゼンドルノ捕提ハ法ニ合ハス此事若シハ國  
大ノ所行ナラハ容易ニ解クヘカラサル難事ヲ  
起シタラント分明ニ陳述シタルニ付キ一  
スルヲ以テ且レソトス此陳述ハセワルト氏  
ンデルソン氏ニレゼンドルヲ捕フル為メ支那  
人ノ助ヲ乞フヘキヲ命シタル電報ト照ス時  
ハ殊ニ其重要ナルヲ覺ユ若シハンデルソン氏  
支那人ノ助ヲ乞ヒタラハ必ラス支那政府ヲシ

テ其本國政府ノ難事ヲ生セシメタラン幸イニ  
シテヘンデルソン氏セワールド氏ノ粗暴ナハ  
ニ役ハサリシヲ以テ此禍ヲ避クルヲ得タル  
ヘンデルソン氏トビンハム氏ニ付テハ論ス  
キヲ多カラスヘンデルソン氏故無キ布告ス  
出シタルハ其過タルヲ必セリト虽セ子  
レゼンドルヲ捕ヘタルハゼワールド氏ノ為メニ  
欺カレタルナリビンハム氏ハ余輩最初ニ最  
モ対ミスズカラサルハ信シタリシカ謹愼事  
ヲ行ヒシヨ明白ニモテ助言敬戒議論徳シ

レ太平洋海船會社ノ代理人セントル氏ノ為  
メニ務ハロタル時ノ分當テ命令ヲ下シタル  
無シ蓋シ此代理人ハ長崎ニ於ケル汽船ニ  
ヨルシテ地位漸々困難ニ陥ルト思考シテ大  
イニ警キ余輩ノ知り得ル所ニ依レハビンハム  
氏ニ説キ在長崎ノ領事ニ「ニューヨーク」  
苗スヘキ命令ヲ贈ラシメタリ然レ此命令  
長崎ニ達セシハ必シク期ニ後レテ直チニ施用  
スル能ハサリキ  
ホルモサ道使ノ横濱ヲ發セシ頃ビンハム氏ハ大



イニ困難ノ地位ニ在リタリ横濱ノ新聞ハ政府  
ノ企テシ事ニ一々敵意ヲ表シ好志ヲ懷ケル者  
ヲ誤ルヘキ者般ノ凡說廣布シ親シク遣使ニ関  
係セシ人ハ日本ノホルモサニ付セル挙動ノ公  
義ナルヲ洞知シタレド之ニ關係セサリシハハ  
支那人ニ疑念ヲ起サシメタル有實ノ助言ヲ為  
メニ支那ノ挙動一変シタルニ目ヲ誤テ日本ノ  
不義ト為シゴンハム氏モ之カ為メニ欺ムレ  
タル一人ナリゴンハム氏ハ始メテ支那ノ異論  
ヲ述シタリ其間ヲ得遠征ニ關係セシ和國人ハ凡

本支府ニ誤レテレニリト疑ヒ之ヲ保護シテ輕  
クノ所行無カラシメント決意シ之ニ依テゴン  
ハム氏ノ是マテ親愛ノ情ヲ表シタル日本ハ怒  
ヲ冒シテ異議ヲ出シ其目的ヲ遂ケント期シタ  
レド大隈及ヒ其他遣使ノ事ニ関セシ諸人亦又  
職務ヲ行ハサルヲ得ス日本ノ挙動ノ公義リ  
シヲ知リ若シ和國公使ノ悦ハサリシ故ノミテ  
以テ其企ヲ廢セハ必ラス國ヲ辱カシメサルヲ  
得スト思フ天皇陛下ノ命令ニ從テ其業ヲ遂テ  
ント決意シ之ヲ為メ風波ヲ起セシヲ顧ミス斯

クシテホルモリ遣使ハ終ニ發程シタリ大久保  
ハ長壽ニ烈着シ既ニ行ヒタル下ヲ回クスルハ  
外別ニ処置ノ方無カリキ前キノ盟約ニ記載ス  
ル如ク支那ハ日本ノホルモサ行ノ義奉ト認メ  
日本政治家ノ処置ノ当否ニ付テ永ク疑無ク  
シメタリ

余輩ハ結末ニゼ子ラルレゼンドルノ捕扱ニ付  
テ在厦門日本代領事ノ異議ヲ記載スルノ旨ヲ  
禁スルヲ能ハス其熱氣大ニ威儀氣カアリテ  
日本官事ハ他國ノ官吏ト並立スルニ適スルヲ証ス

其文ニ曰ク

一千八百七十四年八月十一日厦門日本天

皇陛下領事官

吳碩ヨリヘンデルソン氏ニ

一千八百五十八年日本ト合衆國ノ盟約第十  
條ニ從ヒ一千八百七十二年十月在日ト合衆  
國公使ノ手ヲ經テ日本政府ニ雇ハレ方今支  
那ニ於テ日本天皇陛下ノ特命委負タル合衆  
國人チセーレス、ウレゼンドル一千八百七十  
四年八月六日其使命ニ関スル事務ノ為ニ福

州及上海ニ赴ムヤントスル途中厦門ニ於  
テ足下ノ命令ニ依リ何等ノ罪状タルヲ知ラ  
ス合衆國汽船「ヤンチック」号ヨリ此目的ニ目  
テ上陸セシメタル合衆國海兵ノ為メニ強テ  
足下ノ裁判所ニ伴ハレ翌日其意ニ反シテ再  
ヒ足下ノ裁判所ニ呼出サレ方今本港ニ於テ  
強テ足下ニ扣留セラレ日本天皇陛下ヨリ委  
任セラレタル職務ヲ行フニ能ハスレゼンド  
ルハ唯力ニ抗スル能ハサリシ故ノミヲ以テ  
今厦門ニ於テ暴行扣留ヲ受クルニ肯シ

タルニテ足下ニ告ケ是等ノ處置ニ向テ  
激烈ナル異論ヲ為シタルニ余ニ報知セラ  
レタリ

故ニ在厦門日本天皇陛下ノ代領事タル余吳  
碩日本天皇陛下ノ特命委員ニ對シ斯ル暴行  
ヲ加ヘタルヲ明カニ万国ノ權利ヲ破リ文明  
國ニ於テ公ノ委員ノ享クル特權免許ニ反セ  
リト為シ嚴肅ニ裁論スルヲ余ノ職務ナリト  
ス

吳碩敬白

